

会 議 録

会議の名称	第9回本庄市子ども・子育て会議
開催日時	平成26年9月26日(金) 午後 1時00分から 午後 3時25分まで
開催場所	本庄市役所 2階 職員厚生室
出席者	落合委員長、日向副委員長、内野委員、高橋委員、宮塚委員、 間庭委員、岩田委員、澁谷委員、富沢委員、上野委員、 田邊委員 事務局：駒沢福祉部長、中山子育て支援課長、加藤課長補佐、 ト部課長補佐、下垣主査 学校教育課：斉藤課長補佐 株式会社ワイズマンコンサルティング：堀澤担当
欠席者	谷田委員、中原委員、山川委員、間仲委員、八本委員、 加藤委員
議題 (次 第)	1 開会 2 委員長あいさつ 3 議事 (1) 本庄市子ども・子育て支援事業計画(案)について (2) その他 4 事務連絡 5 閉会
配付資料	1 会議次第 2 座席表 3 本庄市子ども・子育て会議委員出欠席名簿 4 本庄市子ども・子育て支援事業計画(案)
その他特記事項	
主管課	福祉部子育て支援課

会 議 の 経 過	
発 言 者	発言内容・決定事項等
事務局 (中山課長)	(開会あいさつ)
委員長	(委員長あいさつ)

事務局 (加藤補佐)	本日の会議の成立についてご報告いたします。本日は、谷田委員、中原委員、山川委員、間仲委員、八本委員、加藤委員の6名の方から欠席の連絡をいただいています。また、田邊委員から遅れて出席とのご連絡がありました。17名中11名の出席となりますので過半数を超えていますので定足数を満たしておりますことをご報告いたします。
委員長	議事に入ります。 (1) 子ども・子育て支援に関するアンケート調査報告書及びその傾向について事務局ご説明願います。
事務局 (卜部補佐)	第1章についてご説明申し上げます。 (「7. 基本理念」「8. 基本的視点」「9. 基本方針」について説明)
委員長	第1章ということで、一番に市民の方や関係者の方の目に触れる重要な部分ですので、何かご意見等ございましたらお願いします。
副委員長	前回話に出ました基本理念ですけれども、2つに絞って大変良かったと思います。「安心して子どもを生み育てることができる支援体制の構築」、それを受けてより具体化されたものが、「子どもが親が地域が支え合いともに育つ本庄市」ということで、基本理念がしっかりと市民にわかるのではないかと思います。ただ一つ、支援体制の構築というのが、構築という言葉ではなくてももう少し優しい言葉がないでしょうか。そのへんのところが少し気になりますが、いかがなものでしょうか。
委員長	支援体制の構築という言葉についてどうでしょうか。
宮塚委員	支援体制づくりではいかがでしょうか。そちらの方がわかりやすい。
委員長	事務局の方どうでしょうか。支援体制の構築ではなくて、ソフトにして支援体制づくりにする。
事務局 (卜部補佐)	委員長が言われたとおり、支援体制の構築より優しい感じはあるかと思います。
委員長	他に何かございますか。
田邊委員	今の行で、「健やかに」を入れてはどうかと思います。
委員長	「生み育てる」と「健やかに育てる」とでは、富沢先生どうでしょうか。

富沢委員	微妙なところだと思います。「健やか」というのを入れると病児、障害児の育成という非常に重要な問題になってきます。もちろん障害のある、病気のある方をできるだけ少なくもっていくのが理想だと思いますが、生んで育てていくという中には、いろいろな紆余曲折があります。むしろ「健やかに」は入れない方がいいと思います。
委員長	広く感じるけれど、入れることによってその部分だけか強調されます。
田邊委員	健やかという言葉は、そういう風にとらえがちな事もあると思いますが、前回の時、安心して生んで安全に育てるという意見も結構出ていたと思うので、健やかとか安全ということが今の時代、気になるのかなと思ったのですが。もちろん入れなくてもいいと思います。
委員長	あるいは2行目、「子どもの発育と成長が安全に保障される」にしてはどうですか。ただ成長を保障するのではなく、安全にセーフティにと、そこでおさえておくのもどうでしょうか。
富沢委員	「安心して子どもを生み、安全に育てることができる」とするのはしつこいですかね。
澁谷委員	用語の解釈は非常にむずかしいと思いますが、一般的にパッと見た時に、「安心して」が子どもを生み育てる、両方にかかってくるなら、そこに安全が組み込まれているのだと思います。なので、パッと見てわかりやすいのであれば、なくてもいいのかなと思います。
委員長	そういった議論があったとうことだけおさえていただければと思います。他に何かございますか。
岩田委員	2点お伺いします。 5ページの「3. 計画の整合性」について、前にも問題点として指摘したのですが、前のページに次世代育成支援対策推進法に基づく支援行動計画という言葉があるのですが、ここでそれが「本庄市総合振興計画後期基本計画」に変えられているのですが、前のページと整合性をもたせる意味では、次世代法という言葉を使った方がいいのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。
事務局 (卜部補佐)	5ページの表の一番上に書いてあります「本庄市総合振興計画」というのは、「次世代育成支援行動計画」とは別のものです。 次世代育成支援行動計画については、現行の計画は26年度、今年度で終わるわけですが、それについて国では、今の行動計画を包含するような形で今度の新しい事業計画に引き継いでも良いとしています。本庄市の場合、次世代育成支援行動計画を引き継ぐ

	形で今度の新しい子ども・子育て支援事業計画を作ろうとしているところです。
岩田委員	本庄市総合振興計画後期基本計画というのは、次世代育成支援行動計画とは別であると。急に出てきたような感じがするのですが、前の次世代法に基づくものが今度の子ども・子育て支援法にそのまま内容的にはつながっていくわけですよね。 どこかに説明を入れなくていいですかね。
事務局 (卜部補佐)	説明を加えるということであれば、それぞれの計画に説明を入れた方がよろしいでしょうか。
委員長	「3. 計画の整合性」を「整合性と継続性」とすれば、「4. 計画の期間」にマッチングするわけですよね。
岩田委員	計画の整合性という項目を作ったという意味を、次世代育成支援行動計画についても、こういう形で市民に開かれたものとして作ってきたわけです。ところが本庄市総合振興計画後期基本計画というのは我々が良く知らない上で出てきたというのは、唐突な感じがしてむしろ前の計画の位置づけの中にある子育て支援事業計画との継続性がうたわれていけばいいのですが、整合性の意味が見えてきません。
事務局 (中山課長)	(本庄市総合振興計画後期基本計画と本庄市子ども・子育て支援事業計画との整合性について説明)
岩田委員	例えば※印でも付けて、本庄市総合振興計画後期基本計画は子育て問題も含みながら本庄市では策定していますという説明があるといいなと思います。
事務局 (中山課長)	前回の時もお話させていただきましたが、わかりにくい言葉などについては巻末やページの下に解説を入れさせていただきたいと思っています。
岩田委員	もう一つよろしいでしょうか。 8ページの(3)ですが、「子育ての原点は家庭にある」という言葉について、「保護者が子育ての第一義的責任を有する」という次世代法のキャッチフレーズをはずしてしまうのは残念な気がします。保護者が責任を持って、それを我々が支援するのだという姿勢を継続させていった方が良いのではないのでしょうか。
事務局 (卜部補佐)	7ページでも掲げているように、保護者がまず子育てに責任を果たすということが大事であるという考えは根底にはあります。その上で、社会の中の一番小さな単位である家庭における子育てが大事だということをここで伝えようとしています。

委員長	7ページで掲げていることを8ページでも再掲するかということですね。このままでも構わないですか。
岩田委員	前の言葉を変えたのはなぜですか。
事務局 (中山課長)	次世代育成支援行動計画とは違った新しい視点で作り直したのがこちらで、意図的に抜いたということではありません。ここでは基本的な視点を示しておりまして、基本理念のところでは保護者の責任について表現をしておりますので、保護者の責任についての記載がなくなったわけではありません。
委員長	<p>前回はたたき台として前の計画が掲載されていたわけで、一義的という言葉がクローズアップされ、基本的視点の中では際立った表現でした。それを今回新たに子ども・子育て支援事業計画の中にどう落とし込むかといったところでこのような記載になった、継続性といったところを踏まえたうえでもこういった記載になった、という判断でよろしいですか。</p> <p>次回までに、岩田委員と事務局で検証していただくことでよろしいでしょうか。</p>
副委員長	基本方針は基本理念を受けて5つの基本方針を掲げていますが、1つ気になることがあります。これから、ますます子どもの貧困が社会問題になると思います。「子どもの貧困の対策」をどこかに入れておいてもらえればと思います。今、政府の中でもそれを考えているようです。
事務局 (中山課長)	子どもの貧困に関しては、原稿を作成する段階で事務局内でも議論になりました。どこに入れるのかを検討しているところです。
事務局 (駒沢部長)	参考までに、来年4月から生活困窮者自立支援法というのが施行になります。委託もできますが、本庄市としては当面社会福祉課で考えております。その中の任意事業で、準備を進めているのが「学習支援」、貧困の家庭の子ども、生活保護には至らないけれども低所得でなかなか勉強できない子どもへの学習支援を行うという事業です。社会福祉課で行いますが、子どもの施策ということで是非計画に入れ込んでいきたいと思っております。
委員長	<p>子どもの貧困は、どう扱うかが重要なことになってきます。大変重みのある課題ですので、計画に落とし込む際には、福祉部と事務局でよく調整してください。</p> <p>では、第2章・第3章の説明をお願いします。</p>
事務局 (卜部補佐)	(第2章・第3章について説明)
委員長	第3章は、各課から出てきた現状と課題をまとめて掲載したということですね。

副委員長	第3章について、達成状況をA・Bという形で、今回載せていただいたのは大変いいことだと思います。ただ気になりますのが、食育の推進でAというのが入っていますが、現状では、食育に対する親の関心は貧弱かと思うのですが、そのへんのところはいかがでしょうか。
事務局 (下垣主査)	食育に関しては、保育所での食育と学校での食育という観点から、担当課に照会し、良好との結果でそれを反映させていただきました。
岩田委員	27ページ(1)の地域における子育て支援の事業数の66という数字は、行政がやる事業数という意味ですか。民間の保育園や幼稚園がやっている子育て支援事業は入っていないわけですね。
事務局 (ト部補佐)	本庄市役所の各課が実施しているものです。
岩田委員	それは断らなくてもいいのでしょうか。
事務局 (ト部補佐)	ここは、次世代育成行動計画内の事業としての評価なので、その計画内の事業として認識していただければと思います。
岩田委員	ただ、アンケートでも幼稚園がやっている子育て事業の参加者数なども出てくるので、紛らわしいなと思うのですが。民間でやっているものもあるはずなので、誤解を生まないでしょうか。
委員長	第3章は、行政が展開したものに対する評価ですから、民間は含まれません。第3章は全て行政主体になっています。そういう認識でいただければと思います。民間に関しては、次のところでどう出てくるかということになるかと思います。
岩田委員	せめて行政による事業数は、とはっきり断るわけにはいかないですか。
委員長	事業という言葉を使うと官民、施策という言葉を使うと官になりませんか。
事務局 (中山課長)	次世代育成支援行動計画とは何かという説明を前半に入れて、行政の位置づけを明確にした上でそういう事業について評価をして、その評価を踏まえて次の計画につなげていくという表現をさせていただくのはいかがでしょうか。
委員長	今回の計画策定の段階の中で、前回計画の評価・総括はしてあったのでしょうか。
事務局 (中山課長)	年度ごとの評価をホームページに載せています。

委員長	<p>それをどこか前段にでも書くように内部で調整をお願いします。</p> <p>本来なら、民間部分での数値的な達成度も入れるべきなのでしょうけれども、それを入れてしまいますと全体的にバランスが変わってくると思われますので、第3章では前回のものだという事を強調しながら、進めていきたいと思います。</p> <p>それでは、第4章・第5章の説明をお願いします。</p>
事務局 (卜部補佐)	(第4章・第5章について説明)
岩田委員	<p>72ページの食育について質問です。</p> <p>保育所における食育の推進、学校教育における食育の推進とありますが、幼稚園というのは学校教育における食育の推進の方に入るのでしょうか。</p>
事務局 (卜部補佐)	幼稚園は学校教育の方に入ります。
岩田委員	就学前の幼児に関していえば、「保育所・幼稚園における」と並列しないと、食育は保育所だけが行っているようになってしまわないでしょうか。
事務局 (下垣主査)	担当課ごとでの表記の仕方になっていますので、保育と教育で分けた記載になっています。
委員長	<p>65ページからの羅列は冊子になった時にどうなるのでしょうか。関連施策の展開の中で、この施策の中でどれがやれる、できるってところを見せなくていいのですか。</p> <p>今後の推進に向けて第6章に反映されていますか。厳しいこと言いますが、第6章というのは計画推進に向けてという課題性なり実行性を示しているわけですよ。そういった時に各課から出てきた課題とアンケート調査との整合性といったことはどうなっているのですか。</p>
事務局 (下垣主査)	アンケート調査は子育ての関連事業が主なものでしたが、13事業を含めて総括していくことになります。他の課でも関係するところがあればアンケートの結果を汲み取っていただいて事業を進めていきたいと思います。
委員長	何となく事業計画が各章でぶつ切りになっていて、中に通っている串が見えづらい感じがします。
間庭委員	就労と子育て支援を充実するためにはどういう環境を作るのが大事なのかということで、色々な支援策が考えられると思いますので、極端に言えば幼稚園・保育園という区分けなく、子育て支援という一つの考え方の中で解釈する方が一般の人にもわかりやす

	いのではないのでしょうか。
委員長	65 ページからの関連施策の展開は何のためにここに入れたのでしょうか。
事務局 (下垣主査)	事業自体、大きなまとめでは書いてありますが、細かい事業に関する記載がないので紹介しました。
委員長	関連施策の展開は、どのようにこの計画書の中に位置づけられるのですか。
副委員長	関連施策の展開は非常に細かくなっていますが、これは基本方針の展開ですよね。基本方針を具体化してわかりやすくご丁寧にお書きいただいたようですが、膨大な資料で理解していただくのは非常に大変だと思います。もう少しすっきりと簡潔にまとめられた方がいいかと思います。
委員長	では、それを工夫してくださいというお願いとともに、これらを踏まえて第6章の説明をお願いします。
事務局 (ト部補佐)	(第6章について説明)
宮塚委員	具体的なものが何もわかりません。新しく何をしますというのが、これを見ただけではわかりませんでした。これは市役所の中での資料なのか、これをもとに一般市民に発信する元になる資料なのか。これをそのまま一般市民に向けてもほとんど理解できないと思います。
事務局 (ト部主査)	最終的にはホームページにも掲載しますので、市民に見ていただく状況にはあります。
高橋委員	転入してきた人に対してはどのように提示しているのですか。
事務局 (ト部補佐)	転入してきた方に対しては、ガイドブックをお渡ししています。
委員長	計画に基づいて施策が立案されて事業が展開されていくという認識ですよね。
宮塚委員	書いてある事業は、今やっている事がほとんどで新しく何かあるかわからない。アンケートをした時の要望、市民の声はどこにも載っていないなという印象です。
事務局 (中山課長)	今回の計画をつくるにあたってアンケート調査をさせていただきまして、調査の結果を活かす部分は、第4章、第5章にあります。 第5章までの、子ども・子育て支援法に基づく子ども・子育て支援事業計画で定めなくてはいけないもの、これ以外のもので先

	<p>ほどからお話のありました次世代育成支援行動計画の中身の部分をどのようにこの計画の中に引き継いでいくかというところがありまして、65 ページからの関連施策の展開が次世代育成支援行動計画を引き継いだ部分ということになります。2つの計画を1つに足しているような計画にしているのでわかりにくいとは思いますが。現行の次世代育成支援行動計画はもっとわかりやすい表で整理されているので、そのような形でもう一度わかりやすく整理させていただければと思います。</p>
委員長	<p>アンケート調査結果を踏まえて、本庄市ではどういう課題があったかを出せるかどうか。また、他市と比べてどういう課題があるか。それがないと、これからの施策が見えてこないのではないのでしょうか。それを踏まえていけば、子育てコンシェルジュや子育てに関わるNPOなどを本庄市は推進します、という運びになってくると思います。それが本庄市の子育て支援の特色になってくるでしょう。</p> <p>やはり、今まで委員の皆さんと議論したことに関して、あまり入っていない印象があります。</p> <p>調査の内容をわかりやすくして、実際的な課題それに対する対応がどうできるのかをある程度文章化する方が良いかと思えます。それを踏まえて各課なりに各関連事業との結び合わせをして第6章につなげていくのが流れであって、そうすれば調査の結果も反映されてきます。</p> <p>このまま第6章に入ってしまうと、市民の方へのアンケートがただの数字だけで課題に反映されてこないと思います。</p>
リースマンコンサルティング 堀澤担当	<p>今回の調査は他市と比較してというものではなく、それぞれの自治体でどういうニーズがあって、区域ごとに足りていなければ整備しましょうという計画ですので、その自治体でニーズがなければ現状のまま、ニーズがあれば今後5年間で整備していくという計画です。他市との比較より、本庄市で今後どのようにしていくかというアンケートになります。</p>
委員長	<p>本庄市が子育て参加率日本一を目指すのに何が必要かをしっかり計画でうたわなかったら、ウソを書くことになってしまいます。他市の状況を載せるということではなく、他市の傾向を教えてくださいたいのです。市民がわかるような記載の行がほしいです。</p>

事務局 (駒沢部長)	<p>アンケート結果を踏まえて、足りている部分は維持に努めるとして、足りていない部分に関しては強調するなり、やらなければいけない事をまとめます。</p> <p>65 ページからは、市に予算が付いている事業の羅列になります。こういった事業も考えて検討していきますというように強調して入れていかないと、今までと変わらないという印象があると思います。</p>
委員長	<p>総括として、市長も言っていましたように、子育て参加率日本一のまちにするという思いの中で、どのように反映させていく努力をするのかという事業計画ですので、短い時間ですが工夫して進めていただければと思います。</p>
間庭委員	<p>広報の件について内容の説明をお願いします。</p>
事務局 (中山課長)	<p>子ども・子育て支援新制度というものが周知されていないため、広報ほんじょう平成 26 年 9 月号で、子ども・子育て支援新制度シリーズの第一弾ということで掲載しました。その中の幼稚園と保育園の表現で誤解を招くかもしれない記載があるので、もし何かありましたら事務局の方から説明させていただきたいと思います。</p>
委員長	<p>それでは、次回に向けて若干の積み残しはありますが、次回日程につきまして事務局お願いします。</p>
事務局 (卜部補佐)	<p>次回、第 10 回目の会議を 10 月 10 日（金）午後 1 時から、会場は今日と同じ職員厚生室で行いたいと思います。</p>
委員長	<p>今回は最終ですので、委員の皆様も 10 月 10 日までの間に気になるところについて事務局に F A X 等でお送りいただいて、計画に盛り込めるもの、盛り込めないものを判断していただいて、成文化していただきたいと思います。</p> <p>事務連絡について、事務局の方で何かありますか。</p>
事務局 (卜部補佐)	<p>特にありません。</p>
副委員長	<p>(閉会あいさつ)</p>